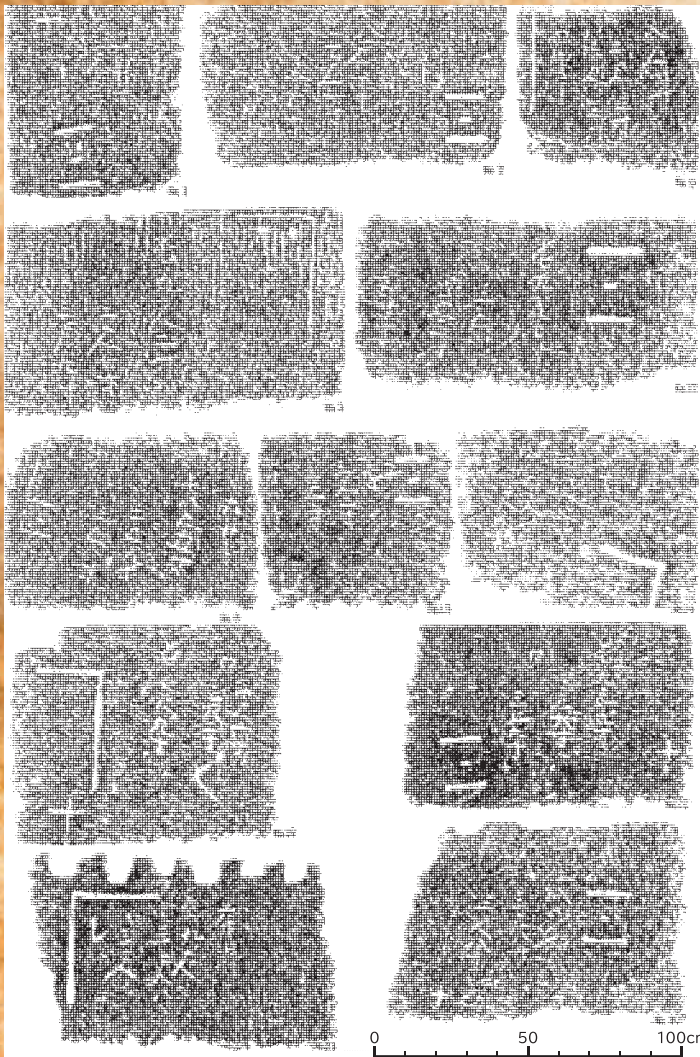


钱途无量

2025/2 現在

大坂城

木津川市観光協会



残石銘文拓影（山城郷土資料館報 第8号より引用）

●木津川市加茂町大野の残念石の特徴

石の小口（短側面）に銘文（日付、寸法、記号）が刻まれています。

刻印石…各大名は自分が運んできた石であることを示すために、切石に尺寸や月日、切り出したことを示す目印となる記号などを刻みました。

矢穴痕…ノミを使って岩石に穴「矢穴」をあけ、そこに鉄製の矢「くさび」を差し込み、上から金づちで打ちつけて石を割りました。



参考：大坂城残石記念公園（小豆島）の残石



藤堂高虎

安土桃山～江戸時代初期の大名。今治城、伊賀上野城、津城、伏見城、江戸城などの築城を手掛け、「城作りの名手」と呼ばれています。元和5年(1619)、二代将軍秀忠は高虎を「大坂城普請総指図役」に任じました。『宗国史』には、高虎自身が90日余り加茂の常念寺に滞在して石切り場を指導したと記されています。元和6年(1620)から西国大名に命じて再建し、三期に分けて10年間で修築工事が完成しました。加茂で切り出された石材は、大坂城京橋口西側の外堀内外各25間、内堀の一部、西外堀の本丸側で使用されています。

文

恭仁宮跡
(山城国分寺跡)

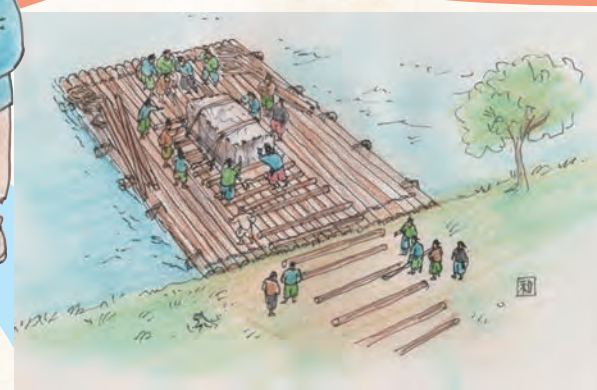
くにおみや
学習館

和東・笠置・伊賀→

藤堂高虎さんの
供養碑もあるのよ

すごい人
だったのね

いかだや船に積み込むようす
巨石を積み込むため、複数のいかだや船を接続したこともあったようです。多数のいかだや船が必要なため、となりの笠置から加茂にいたる川筋の船を調達した記録が残っています。大野山から切り出した石は赤田川におろし、いかだや船で木津川から淀川をくだり、大坂城まで運ばれました。



大野の残念石



木津川

一般社団法人
木津川市観光協会
10:00-17:00 水曜定休

加茂文化センター



加茂文化センターの残念石

JR 加茂駅

藤堂高虎供養碑

NPO法人 ふるさと案内・かも
観光案内所（駅改札横）
土：9:00-13:00
日祝：9:00-12:00(1,2,8月は休)

常念寺



常念寺の残念石



大野山から石を切り出すようす
自然な割れ目や大きな矢穴を作ったところに鉄製の矢をねじ込んですきまをこじ開け、さらにすきまを広げて倒しました。

山城町の
開橋のところ
にもあるのよ



大野山の残念石
※大野山への入山はおやめください。
山中で野生動物に出会うと危険です。



大坂城で石垣を積むようす
いかだや船からおろした石は、大人数で修羅をつかって普請場まで曳き、人力で積み上げていきました。



山城郷土資料館の残念石

ふるさとミュージアム山城
（山城郷土資料館）

奈良↓

※すべての掲載イラストは
記録などから推測される
想像図です。